



画像 / 蠟管と蓄音機
(東京藝術大学所蔵)

蠟管のなかの ノイズ (三味線と三線の 音楽)

—人間の持つ能力と感受性への挑戦—

2018年1月26日(金)

東京藝術大学 Arts & Science LAB. 4F 球形ホール

開場:17時 開演:17時30分(終演予定19時)

主催:東京藝術大学 COI 拠点

蠟管のなかのノイズ

(三味線と三線の音楽)

—人間の持つ能力と感受性への挑戦—

東京藝術大学では、明治期の音楽録音資料である蠟管ⁱ 212本を所蔵しています。これらは、明治期に東京音楽学校邦楽調査掛ⁱⁱ が邦楽曲を録音したもので、現在では世界に類のない「邦楽に特化した蠟管コレクション」として位置づけられるものです。

この「蠟管」を保存・管理する本学大学美術館では、2006-2008年度に、蠟管に記録された音源をデジタル化し復元するプロジェクトに取り組みⁱⁱⁱ、その時代背景や記録媒体としての蠟管の受容に関する研究を続けてきました。

今回の報告会では、およそ100年前に記録された蠟管音源の中から「三味線と三線の音楽」に焦点をあて、東京藝術大学の新たな取り組みとして、再生時に生じる雑音(ノイズ)を併せ持つ蠟管の価値を現代に甦らせませす。これまでも蠟管のデジタル化・ノイズ除去は世界で行われてきましたが、今回のプロジェクトでは、ノイズや経年劣化を含めた蠟管の特性に対して、人間の持つ能力と感受性を加えた新たな視点からアプローチを行います。

東京藝術大学ならではの復元方法で、100年前の三味線と三線の演奏と、蠟管そのものの持つ魅力を伝えるだけでなく、芸術の収集(コレクション)や記録(アーカイブ)、創造(クリエイティブ)の源泉としての「蠟管の新たな活用」を試みたいと思います。

- i 蓄音機を発明したトーマス・A・エジソンが、明治21年(1888)に改良発明した蠟製の録音媒体。
- ii 日本の邦楽の調査と保存のために文部省が、明治40年(1907)に設置した機関。
- iii 明治期における音楽録音資料・蠟管(ろうかん)の保存体制と公開手法の研究(研究代表者:薩摩雅登, 課題番号 18320029-0005, 平成18-20年度日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究B一般)

【プログラム】

(1) 「蠟管とノイズ」

宮廻 正明 東京藝術大学COI拠点 研究リーダー(RL)

(2) 「大学美術館の蠟管プロジェクトと成果」

薩摩 雅登 東京藝術大学大学美術館 教授

(3) 講演「東京音楽学校邦楽調査掛が録音した明治の音楽—蠟管蓄音機を用いて—」

松村 智郁子 東京藝術大学音楽学部小泉文夫記念資料室 学術研究員(大学美術館音楽資料研究協力者、COI拠点研究協力者)

(4) デジタル音源の試聴 *2008年に本学大学美術館で行った「蠟管のデジタル化音源」より

① 「琉球歌《散山節》金武 良仁 演奏」(明治43年11月12日収録)

解説「蠟管録音による琉球歌の背景—明治期の新聞記事から読み解く—」松村 智郁子

② 「長唄《五大力》五代目 杵屋 勘五郎 演奏」(明治41年3月30日収録)

(5) 共演—現代の演奏と蠟管の音源による—

① 「三線と蠟管」

琉球古典音楽《散山節》

花城 英樹(琉球古典音楽 安富祖流 歌三線)

② 「長唄三味線と蠟管」

長唄《五大力》

小島 直文 東京藝術大学音楽学部邦楽科(長唄三味線) 教授

味見 純 東京藝術大学音楽学部邦楽科(長唄) 准教授

* 当日の演奏曲目および内容を変更する場合があります。ご了承ください。



明治期に跳えた収納棚の蠟管
[大学美術館, 2006.4.30]



Arceophone (アーケホン) による蠟管の
デジタル化 [大学美術館, 2008.10.30]

強聲發音機

驚くべき大發明
米國エヂソン氏最新新式
強聲發音機新式

驚くべき理學作用
右種々形其品取揃へ新式有價廉致候間
（全貳拾五圓以上各種）
さきかゝい

ノヤビ、琴風手、ソガルオ
類器樂奏吹隊樂
所賣販大
入南町寺寶久南橋齋心市阪大
塵器樂原石
番七壺五東話電

石原楽器店(大阪 心齋橋)の広告「強聲發音機
驚くべき大發明ものいふさきかゝい驚くべき理學
作用」明治32年2月2日付「大阪朝日新聞」

東京藝術大学 Arts & Science LAB.



〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8

<http://innovation.geidai.ac.jp>

●JR 上野駅(公園口)、東京メトロ千代田線根津駅(1番出口)より徒歩10分

●京成線上野駅(正面口)、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅(7番出口)より徒歩15分

●JR 上野駅公園口から台東区循環バス「東西めぐりん」(東京芸術大学経由)で4分停留所「東京芸術大学」下車(30分間隔)

※駐車場はございませんので、お車でのご来場はご遠慮ください。

